

殺伐的ノ犠牲ヲ伴フ、愛國ノ志士以外ニ立テ、平和的ノ思潮ヲ活躍發揮スベキ憂世者ノ奮起ヲ望ム。

己ニ其一般の尤大ナル有害性作用ヲモ不明ナル間ニ在テ、長ヘニ之レヲ蒙リツツアツタノデアレバ、現在世界ノ開明國中ニ於テ眞ニ稀有ニ見ル所ノ小人國ナルカノ觀アルガ如ク、苟クモ成人ノ男子ニシテ、其身長ノ五尺五寸以下ナル者ノ多大數アルノミデハナク、實ニ五尺以下、僅カニ四尺餘ノ矮小ナル男女ヲモ、之レヲ見ルユトアルニ於テチャ、之レヲ如何ゾ、古來ヨリ能クアル、慷慨、義烈ニシテ、慘澹タル殺伐的ノ犠牲ヲ伴フ、愛國ノ志士以外ニ立テ、以テ宏大、無限ナル科學界ニ於テ、其無究的ナル進達上ヨリ、其平和的ナル神的思潮ヲ活躍發揮スベキ憂世者ノ奮起シテ、現出スルユトナクシテ可ナランヤ。吾人ハ國人トシテ、之レヲ謂フニ忍ビザル所ナルモ、學術上ヨリ忍デ、該ノ一般の狀態ヲ自著ナル常用白米ノ中毒病論ヨ

リ、茲ニ拔抄シタノデアアルガ、是レ以上ノ説述ハ茲ニ之レヲ摺キ、更ニ一步ヲ進メテ、一ニハ該ノらひちす病及ビ其續發症ナル、世界無二ノ鼻たらし病等、其撲滅策ヲモ、之レヲ概述シ、合セテ、本邦人將來ノ大發展上ニ就キ、尤大、無限ノ關係ヲモ有スル、其常食料ノ如何ヲ、最モ簡易ニ、概述シ置ユト思フ。吾人ハ長期間ノ過去時代ニ於テ、既述ノ如ク、玄米或ハ白米、若クハ麥類、其他ノ雜穀等ヤ、野菜等ヲ常食シ、鳥獸、魚ノ肉等ハ神佛ヲ穢スモノトシテ、多クハ之レヲ食ハズ、殺生禁斷ノ迷信的思想ノ鼓吹ニ因ツテ、蛋白質過少ノ勞働食ニ馴致セラレツツアル等ノユトアリシモ、現時ニ在テハ、該ノ迷信的思想ハ方サニ打破セラレツツアリ、國人ノ多クハ已ニ進歩セル常食料ニ慣レツツアルモノナリトハ言ヘ、時勢ノ移化シ、學術ノ進歩ス

ルト俱ニ、我が邦今日ノ常食料ハ猶ホ一層ノ進歩ヲ爲スベク、其設備ト改良トヲ必要トスレバ、更ニ進ンデ止マザルノ概アルハ言フマデモナシ。

思フニ、我が邦ノ今日ハ、方サニ各方面ニ向テ、充分ナル研究ヲ積ミ、重要ナル發明ヲ遂ゲ、偉大ナル發展ヲ要スル秋ナレバ、吾人ガ此ノ世紀ニ處センニハ、其進歩、發達上、各方面ニ於ケル研究ト、設備トノ要點ヲ了解シテ、世界的競争ノ大舞臺ニ出演スルモ、毫モ遜色ナキマデニ造詣スベキユトハ、目下ノ緊急要件トモ謂フベキデアレバ、國人ガ汎ク且ツ深く之レヲ考究スベクシテ、實ニ忽諸ニ付スベキニアラズ、苟クモ之レヲ遂行セントセバ、我が邦今日ノ學術進歩以外、猶ホ進デ超逸セル造詣ヲ要スベキユトナリ、國人中多數ノ優秀ニシテ、超逸セル大腦力

者ヲ輩出セシメントスルニハ、一方ニ在テ、直接的ニ、其常食料ニ關聯スルユトハ、今日ノ科學的原理ニ照ラスモ、拙著ノ始原的論理上ヨリスルモ、眞ニ明瞭ナル事實アルモノトナレバ、余ハ茲ニ本邦人ノ常食料ニ就キ、充分之レヲ研究スベキ餘地アルモノト信ズルノデアルガ、如何セン之レヲ詳言センニハ、本邦ノ大國産タル米穀、其者ノ年年四千五百萬石以上ノ大收穫アルモノニ關係スルユトナルノデ、苦心ト、遺憾ト交ゴモ至リ、實ニ口外シ難キ所ナルモ、若シ爲シ得ベクンバ、大豆ヲ首メ、粟、麥類、蕎麥、赤豆、じやがいも、さつまいも(貯藏ニハ稍ヤ困難ナリ)等ハ一層注意努力シテ、其增收ノ方法ヲ講シ、高價ナル米ハ可及的ノ多額ヲ輸出シ、之レニ易フルニ、大豆ノ一千五百萬石餘ヲ得テ、此レ等ノ食料品ト、可及的の多量ノ肉類トヲ常食スベ

日本兵士ノ身長ハ將來五尺五寸餘ニ至ラシムルヲ期ス。

シトノユトヲ論究スルノデアアルカラ、現時ニ在リ、國人トシテハ、忠實ナラザルカノ苦心遺憾等、交ゴモ至リシモ、若シ之レヲ默過スレバ、不忠不徳ノ苦責ヲ免ル能ハズ、敢テ之レヲ言フトシテモ、畢竟米ト大豆トノ交換ニアレバ、寧ロ今日ヨリ、其所信ヲ斷言シ、其事實アル所ヲ切論シテ、漸次的ニモ、本邦人一般ノ勞働性常食料ハ、之レヲ科學的若クハ始原論的ナル原理ノ下ニアツテ、適當ノモノニ改良シ得ルニ至レバ、將來ニ於ケル本邦人ハ、其一般的ナル不適當ニシテ、尙ホ且ツ有毒性ナル常食料ヨリ生起シツツアル國人病ヲシテ、全滅セシメ、茲ニ將來ニ於ケル本邦人ノ一般的體格ヲシテ、偉大強力ナラシムルニアレバ、一般兵士ノ身長ノ如キモ、實ニ四寸餘ヲ増加セシメテ、其レヲシテ五尺五寸以上ノモノトナラシメ、無數ナル病弱者ガ、

畸形者ヤ、異態者等ハ、著シク之レヲシテ、減退セシメ、得ルノミデハ、ナク、國人中、其發達シ得ベキ腦力アル者ハ、之レヲシテ、其絶頂ニ到達セシメ、得ベキ常食料即チ蛋白過多ノ勞心性常食料ト爲スニアレバ、其有益ナルコトハ、之レヲ舉グルニ堪ヘナカロート思フノデアアル。

余ハ我が邦將來ノ爲メ沈思熟考シテ、今日ニ在リ、敢テ該ノ陳述ヲ爲シタノデアアルガ、我が國以外、汎キ萬國ニ在テ、經過シ去リタル事歴ニ就キ、之レヲ鑒ムルモ、今日已ニ如何ナル論客ヤ、如何ナル論者等アルヲ豫期シ難キ所ナキニシモ、アラズ、概スルニ人心トシテ、或ハ一世ニ大飛躍ヲ爲シ得ベキ精神的作用ノ事業ト自ラ之レヲ期シ、且ツ確信スルモノアリトスルモ、時勢若シ不幸ニシテ、其偉大ナル精神的作用モ、亦之レニ伴フ現

象モ、若シ現在ノ多大數者ヲシテ之レヲ心電的ノ電流性作用上ヨリ電化セシムル能ハザル時ハ即チ偉大ナル陽性ノ電流的精神作用モ、玆ニ陰性的ノ感電者タルベキ最多數者ヲシテ、心電術的親和的ニ電化セシムル能ハザルモノトナレバ、彼ノ聖學ヤ宗教ノ祖始等ニ於ケル如ク、其當時ニ該タリ偉大ナル腦機能ノ作用ヲモ、現在ヨリハ寧ロ後世ニ在テ、其最大多數ナル陰性的ノ感電者タルベキ者ヲ得タルトキニ於テ、玆ニ始メテ蓋世的ニ活躍發揮スルヲ得ルニ至リ、其學派モ、其宗教モ、之レヲ萬古ニ傳ヒ得ルニ至ル者アリ、例ヘバ、時代ト思潮トニ遭遇セザルトキハ、凡ソ千古ニ傑出セル者ト、後世ノ學者ガ之レヲ認メテ、世界ノ四大聖人ト爲シツツアル、大聖人ナル孔子モ世ニ合ハズ、卓說百世ヲ風靡セシ大聖、そくらてすモ、毒刑ニ瘡

レ、救世者タル大聖耶蘇ハ十字架ニ卒ハリ、佛祖タル大聖釋迦ハ原野ニ逝キ、其他多クノ學術者、多クノ文豪等モ、人トシテ空シク無妻ニ終リ、藝術家ノ不遇ニ終ル者等モ亦尠シトセザルハ、蓋シ當時ニ在テ、其電化的ノ親和作用ガ、其普洽シ得ザルト、偶合シ得ザルトニ是レヨルモノナランカ、況ンヤ、鯨體ノ如キ、尤モ遲鈍ナル神經ヲ享有スル、余ノ腦機能ナル、一時性ノ電流的心電作用ニ因リタルモノヲヤ。

第四

素人自稱ノ脚氣病ヨリモ、遙カニ重視スベキ我が邦ノ花柳病ニ就テ。

花柳病ノ撲滅策、即チ前著ナル花柳界ノ始末論ノ拔萃。東京市内ノ如ク、極メテ脚氣ヲ生起シ易スキ、状態ニアル土地ト雖モ、尙ホ且ツ四時ヲ通ジテ、白米七、大麥三ノ常食ニヨリ、稀レニ治療ヲ要スベキ、自稱ノ脚氣患者ヲ出シ、白米五、大麥五ノ常食者ニテハ素人が自認スル脚氣病者(合併病ナキ)トシテ、其醫療ヲ要スルニ至ル者アルハ、蓋シ極メテ稀デアアル、然ラバ都會ヤ、市町ハ固ヨリ、之レヲ問フノ遑ナク、當テ余ノ出入シタル商店等ハ、先年來脚氣病者ヲ出スエト頗ル稀レニシテ、或ハ全ク醫療ヲ要スル者ナキニ至レルバカリデハナク、近年東京

市内ノ住者中、注意周到ノ家ハ、白米七、大麥三、或ハ白米六、大麥四位ヲ常食スル者尠ナカラザルニ至リタレバ、余ノ觀タル所、東京市内ニ於ケル素人自認ノ、脚氣發病者ノ數ハ、近年殊ニ著シク減退シツツアルコト、疑ヒナキ事實デアアルガ、是レハ主トシテ、素人ノ獨斷的ニ認知シ得ル脚氣病ナノデ、學術上ヨリ吾人ノ觀タル、常用白米ノ中毒病ヤ、營養障害等、其者ハ斷ジテ、斯ノ如ク輕易ニシテ、度シ易スキモノニハアラズ。

兎モ角モ、我が衆議院ノ堂堂タル決議ニヨリ、建築セラレタル脚氣病ハ、該ノ素人自認ノ脚氣病タルコトニ相違ナイノデアアルカラ、我が邦人が舉國一致ヲ以テ、若シ毎年三月ヨリ十一月ニ至ル間ヲ、白米ト大麥(引割)若ク

ハ小麦ヤ、粟ヤ、じやがいもヤ、さつまいも等ノ半半ヲ常食スルユトトシタナラバ、日本全國ノ大都會ヲ首メ、市町、村落等ノ住人(但シ他病者ニ併發スルモノハ之レヲ除ク)マデ、設シ、夏季炎熱ノ候トナルモ、素人が單ニ自ラ脚氣病者トシテ醫療ヲ要スルニ至ル者アルハ(但シ併發性ノ脚氣ヲ除ク)蓋シ極メテ小數ノ者トナリ得ベキデアレバ、若シ白米ヲ全廢シ、麥ヤ、粟ヤ、ばんヤ、じやがたらいもヤ、さつまいもヤ、若クハ其他ノ物ヲ常食料トシテ、能ク之レヲ持續スルユトトセバ、該ノ素人自稱ノ脚氣ノ發病ハ、我が全國ニ於テ、之レヲ全滅シ得ルユトデアロト思フ。故ニ數年前マデハ毎年四月中ノ新聞誌上ニ、東京醫科大學ノ脚氣病室ハ、其開始ノ廣告アリシ

本篇、一九三
丁ニアル脚氣
ト花柳病トニ
關スル、新聞
紙上ノ、廣告
ノ統計數ヲ參
觀スベシ。

モノモ、近年ハ全ク其跡ヲ絶ツニ至レリ。
東京市内ノ脚氣病院ヤ、脚氣専門醫ハ年年減衰シ、殆ド自滅ノ狀況ヲ呈シツツアツテ、彼ノ方サニ全盛ナル花柳病専門醫ヤ、婦人病専門醫等ト、反比例ニ盛衰ヲ爲シツツアルガ如クデアアル。
是ヲ以テ我が邦人が俗間ノ素人ナル無識者ノ稱スル脚氣病ニ就テ、之レガ豫防策ヲ講究セントスルモ、或ハ恐ル、既ニ已ニ、其適當ナル防禦時期ヲ逸シ去リタルニアラザルナキカト(余ノ觀タル常用白米ノ中毒病、シカモ、其進行セル一症狀ニ過ギザル、所謂脚氣ナルモノハ、此ニ於テ彼ノ素人自認ノ脚氣トハ、其元來ノ病性、狀態等ノ下ニ於テ、非常ナル相違ノ基點ヲ有スルモルデア

ル、ユ、ト、ガ、明、了、ス、ル、ノ、デ、ア、ル、何、ト、ナ、レ、バ、該、ノ、脚、氣、病、ノ、豫、防、ハ、既、ニ、民、間、ニ、於、テ、汎、ク、其、常、食、料、ノ、注、意、ニ、ヨ、リ、或、ハ、減、退、シ、若、ク、ハ、殆、ン、ド、消、失、シ、去、ラ、ン、ト、ス、ル、ノ、性、質、ヲ、呈、シ、ツ、ツ、ア、ル、モ、ノ、ナ、レ、バ、今、後、若、シ、我、ガ、國、人、ノ、全、部、ガ、舉、ゲ、テ、白、米、ト、大、麥、等、ト、ノ、等、分、ヲ、常、食、ス、ル、ユ、ト、ト、セ、バ、該、ノ、素、人、自、稱、ノ、脚、氣、病、者、ハ、我、ガ、醫、師、ノ、治、療、界、ニ、ハ、殆、ン、ド、稀、有、ノ、モ、ノ、ト、ナ、リ、得、ル、ノ、デ、ア、ル、然、レ、ド、モ、白、米、常、食、其、モ、ノ、ノ、營、養、的、障、害、ヤ、中、毒、性、症、徵、ト、シ、テ、生、起、シ、來、ル、ベ、キ、モ、ノ、ハ、斯、ノ、如、ク、淡、薄、輕、易、ノ、度、シ、易、ス、キ、モ、ノ、ニ、ア、ラ、ズ、シ、テ、其、實、ハ、我、ガ、邦、人、ニ、對、シ、空、前、絶、後、ノ、國、家、的、大、災、害、ト、爲、シ、得、ベ、キ、頑、窄、ナル、難、物、ト、爲、ス、ベ、キ、モ、ノ、デ、ア、ル。

是レニ由テ、之レヲ觀レバ、花柳病ハ方サニ日出ノ勢力ヲ有スルニ、素人自稱ノ脚氣、即チ帝國議會ノ建議シタル脚氣病ナル者ハ、若シ之レヲ民間ノ防禦策ニ委スルモ、敢テ其流行シ、蔓延スルノ虞ナキモノノ如クデアアルガ、現今、全然之レト反對ニ、全盛ヲ極メツツアル花柳病ハ、之レヲ民間自由ノ豫防法ニ委シ去ルトキハ、全然無効ニ歸スベク、又之レヲ民間各自ノ治療法ニ任シテ、省ミザレバ、管ダニ其治驗ノ少キノミナラズ、反テ其蔓延ノ動機トモナラン。

花柳病ハ斯クモ猛悪性ノ傳播力ヲ有シ、甚ダ患フベキ害毒ヲ汎ク社會ニ流シツツアルモ、唯ダニ幸ナルハ、其完全ナル豫防方法ト、特效的治療方法トガ、既ニ我ガ醫

師ノ掌中ニアレバ、要ハ其傳播ヲ防禦シ得ベキ、最良ナル方法ト、其善良的ニ始末シ得ベキ手段方法トナ、講究スルニアルノデアアル、ガ、今日迄社會ノ裏面ニアツテ、公然ノ秘密トナリ、正サニ實行セラレツツアル、該病豫防ノ方法アリトスルモ、或ル點ヨリ花柳病ノ豫防方法ヲ含メル、或ル現行犯者ニ對スル手段ノ如キハ、其方法極メテ残忍、酷薄ノ行爲ニ出デ、人道上ヨリ我が近係ノ同胞、然カモ其ノ多クハ可憐、妙齡ニシテ、浮世ノ不幸、悲況ヲ重ネ、縦シ、薄幸ノ貧家ニ生レタリトハ言ヘ、花モ及バヌ時ナルニ、所謂貧ガ身ヲ喰フトノ喩ヘニ洩レズ、心ニモナキ鬼トナリ、高キ枕ニ清夢ヲ結ブ能ハザル身ノ、深キ夜半ノ嵐ニ襲ハレ、忽チ暗界ニ投ゼラルル、拘留ノ罪

科ヲ買ハントハ、噫ア。

天道ナル自然ノ要求ハ果シテ是カ。非カ。人道視セララル罪科ハ果シテ是カ。非カ。相互間ノ傷病ハ果シテ罪科ヲ荷フニ足ルカ、抑モ不自然的ナル人爲ノ法令ハ果シテ備カ、不備カ、兎ニ角罪惡者トシテ、世ニ尤モ恐ルベク、嫌フベキ拘引、拘留、科料ナゾ、凡ソ人性トシテ大ナル耻辱ノ罰則ニモ、觸ルル事トナルノデアアルガ、若シモ吾人が眼界ヲ汎キ思想界ニ轉ズレバ、天道トシテ自然界ノ解釋モアルベク、人道トシテ學理上ノ見解モ存スベキデハアルガ、顧フニ、彼レ等ハ人トシテ身ヲ喰フ、心ニモナキ、アサマシノ鬼トナツテ、社界ノ裏面ニ潜在シ、其滔滔タル暗流ハ社界ニ多大ナル害毒ヲ流シツツアルノ

デアレバ、該ノ病禍的慘流ハ正サニ全國人ヲモ、大不幸ノ波間ニ漂ヨハスニ至ルベキ概ガアル故ニ、吾人ハ此ノ機ヲ逸セズ、其適當ナル防止策ヤ、始末ノ方法等之レヲ急速ニ講究スベキノ必要アルニヨリ、彼レ等ニ關シテハ天道ナル自然ト、人道ナル不自然トノ兩途ヨリ、又世人ニ對シテハ、其公安ヲ圖ルベク、若クハ醫界ニ處シテ、其汚點ヲ掩フベク、此ノ事ニ就テ少シク之レヲ述ベテ見ヨ！

現時ニ於ケル我が邦ニハ(素人自稱ノ脚氣病ノ外)花柳病ガ尤モ廣ク社會ノ裏面ニ亙リ、滔滔トシテ、尤大ナル暗流ヲ狂奔セシメツツ儼存シ、唯ダ現在ニ多大數ノ國人ヲシテ、苦惱セシメツツアルノミデハナク、既ニ已ニ、

其體質マデモ、汎ク之レヲ不良状態ニ陥キラシメツツアルノデアル。

故ニ主トシテ國人間ノ裏面ニ横行スル花柳病ト、單ニ其表面上ニ現ハルル脚氣病トニ就テ、此ノ二病ガ如何ニ社會ニ對シテ、其慘害ヲ逞フシツツアルカヲ討究シタルニ、去ル三十八年ノ帝國議會ガ全院一致ノ下ニ、建議シタル脚氣病ノ調査事件ト、年年幾回トナク、提出セラルルモ、未ダ其議ノ協ハザル、花柳病ノ防禦策トハ、吾人ガ平和ナル今日ニ在テ、之レヲ觀レバ、花柳病ハ汎ク我が國人間ニ、其害毒ヲ流スユトノ多クシテ、且ツ汎キハ、素人自稱ノ單特ナル脚氣ヨリモ、却テ遙カニ大ナル優勢ヲ占メテ居ルノデアルカラ、僅カニ一東京市内ヲ

一瞥スルモ、已ニ充分ニ明了ナル事實ガ儼存シテ居ル
ノデアアル。

我ガ東京市内ニハ嚮キニ一二ノ花柳病専門醫ヤ、婦人
病専門醫ガアツタカモ知レヌガ、近年ハ市内至ル所ニ
花柳病、或ハ産科、婦人科、若クハ婦人科専門醫ノ門牌ヲ
見ルバカリデナク、猶ホ雨後ノ筈ノ状態デアツテ、堂堂
タル花柳病専門ノ病院ヤ、産科婦人科ノ病院等モ起ル
ノデアレバ、我ガ邦ノ今日ハ花柳病専門醫ヤ、婦人病專
門醫等ノ全盛時代ト言フモ、敢テ誣言ニハアラザルベ
シ。

吾人ハ是ニ於テ、該ノ花柳病ノ専門醫等ガ如何ニ全盛
ヲ極メ、脚氣病専門醫ガ如何ニ衰微セシカナヲ發見セン

トセバ即チ斯ノ各業者ノ、新聞紙上ノ廣告數ニ就キ、特
ニ脚氣病者ノ多キ盛夏ノ候ニ於テ、之レヲ統計スレバ、
輒チ之レヲ了解シ得ベシ、其統計數ハ實ニ左ノ如クデ
アル。

明治四十四年八月五日ヨリ同九月五日ニ至ル間ノ、東
京時事、朝日、報知ノ三新聞紙上ノ廣告中、
花柳病及ビ婦人病専門醫ノ廣告回數ハ二百八十四回、
脚氣専門醫ノ廣告數ハ僅カニ十五回デ、
内科、外科、眼科等、各科ノ廣告數ハ三百二十九回デアツ
タ。

吾人ガ該ノ廣告回數ヲ一瞥スレバ、
花柳病ニ屬スル者ハ非常ニ多ク、

脚氣ニ屬スル者ハ甚ダ尠シトス。

元來花柳病者ハ外科ノ治ヲ乞フ者甚ダ多キモ、又他科ノ治ヲ受クル者モ、尠ナカラザルニ反シ、脚氣ニハ、其専門病院ハ、一モ之レアルヲ見ズ、則チ其已ニ衰退セル實況ハ眞ニ明白ナモノデアルト同様ニ、若シ該ノ花柳病ニシテ、減退セバ、其専門家ハ多ク失業スルニ至ルベク、婦人科ノ病院等モ亦衰退ノ映響ヲ蒙ムルベキモ、之レニ反シ、此ノ直接ナル關係ハ、外科及ビ他ノ醫家ニハ、左マデ大ナラザルモノト思フノデアレバ、乃チ前記ノ如ク區分シタノデアアル。

顧フニ、該ノ花柳病専門醫ヤ、婦人病専門醫等ノ全盛ハ、即チ花柳病蔓延(即チ淋毒性ナル婦女ノ尿道炎ヤ、膀胱

加答兒ヤ、睦炎ヤ、子宮內膜炎等ヲ含ムノ外、尙ホ痔疾ノ一部ニハ花柳病性ノ者モアルノデアアル)ノ全盛ヲ明瞭ニ指示スルモノト謂フモ、不可ナキデアアル。

本來花柳病ハ暗暗裏ニ蔓延シ、其性極メテ羞耻スベキ疾病ニ屬スルモ、苟モ之レニ觸ルレバ、輒チ傳染シテ、醫療ニアラズンバ、治癒シ難ク、其性質ハ隨テ傳染シ、隨テ蔓延シ、易ク、其有害性作用ハ實ニ甚大ニシテ、且ツ廣汎ナレバ、其社會ニ害毒ヲ流スコトニ至ツテハ、實ニ慘慄措ク能ハザルモノアリトスルモ、此ノ大慘害アルモノニシテ、未ダ吾人醫業者以外ノ者ヲシテ、斯クモ感動セシムル能ハザリシハ、人道ノ爲メ、吾人ノ頗ル遺憾トスル所デアアル。

自然界ハ人類ノ繁殖ト、人智ノ進達トニ從ヒ、一方ニ要求スルモノアレバ、他方ニ於テ、之レニ應ズベキ必要ノ起ルハ、蓋シ其通則トナシ得ベキモノナラン。故ニ我が邦ニ古來ヨリ公許ノ娼妓アリシモ、蓋シ亦其一ナラン、然レドモ我が邦ノ如ク、公娼ナシテ較著ナル區廓界ニ在ラシムルハ、國家ノ體面上、人道ノ道義上等ヨリ、之レヲ視ルニ、今日ノ如ク、進達シツツアル本邦ノ爲メニハ、奇觀千萬、醜體無比ノ恨事デアロト、思ハレルノミデナク、公娼以外ニハ、之レニ幾倍セルカ、其實數ハ未ダ容易ニ、之レヲ量リ知ル能ハザル、多大數ノ密賣者ガ潜伏的ニ存在シツツ、我が邦ノ全土ヲ舉ゲテ、到ル所ニ横行シ、闇ヨリ暗ニ傳ハルベク、殆ド荒ミタル怒濤ノ如ク、猛

然トシテ劇烈性ナル慘毒ヲ流シツツアルノデアルカラ、現時ニ於ケル我が邦ノ花柳病ノ蔓延ハ、本邦有史以來ノモノト爲シ得ベキ概ガアルノデアアル即チ我が邦ニ於ケル花柳病ハ、現ニ全盛ノ時期デアルト言フヲ得ベキデアアル。

顧フニ、大陸、殊ニ歐洲ノ古記ニヨレバ、其中世紀ノ頃ニペすと病、癩病、花柳病(梅毒)、痘瘡等ノ如キ、尤大ナル悪性傳染病ガ相ヒ續デ、非常ナル大流行ヲ爲シ、慘澹タル尤大ノ禍害ヲ演シ、以テ人類ノ繁殖力ヲモ沮害セシトノ記事ヲ留ルニ至リ、其十四、五世紀ノ頃、癩病ノ大流行ニ次デ、花柳病(梅毒)ノ蔓延ヲ始メシ頃ニ在テハ、歐洲中ニ一萬九千、單ニ佛國ノミニテモ二千ノ癩病院アリシト

ノ、ユ、ト、ナ、ル、ガ、我、ガ、邦、今、日、ノ、花、柳、病、蔓、延、ノ、状、況、上、ヨ、リ、推、測、シ、テ、之、レ、ヲ、憶、斷、ス、ル、ユ、ト、ト、セ、バ、今、後、我、ガ、邦、ノ、花、柳、病、專、門、醫、ヤ、婦、人、病、專、門、醫、ハ、其、幾、千、人、ノ、多、キ、ニ、達、シ、得、ベ、キ、ヤ、今、日、ニ、在、テ、豫、メ、之、レ、ヲ、推、測、シ、得、ズ、ト、ス、ル、モ、吾、人、ハ、茲、ニ、至、テ、痛、恨、慨、歎、セ、ザ、ル、ヲ、得、ン、ヤ、我、ガ、邦、今、日、ノ、醫、界、ハ、有、史、以、降、大、進、達、ノ、時、デ、ア、ル、吾、人、ハ、斯、ノ、醫、學、最、盛、ノ、今、日、ニ、在、テ、尤、モ、忌、ム、ク、最、モ、恥、ツ、ベ、キ、花、柳、病、ノ、最、大、流、行、ナ、ル、全、盛、ヲ、視、ル、ハ、其、專、門、家、ト、俱、ニ、吾、人、ノ、一、大、恨、事、ト、爲、ス、ベ、キ、デ、ア、ロ、ウ、否、テ、慚、愧、ス、ベ、キ、一、大、事、デ、ア、ル、況、ン、ヤ、余、ハ、花、柳、病、ヤ、婦、人、病、等、ニ、對、シ、テ、ハ、敢、テ、專、門、的、ノ、智、識、ヲ、有、セ、ザ、ル、モ、我、ガ、邦、ノ、今、日、ニ、於、ケ、ル、國、勢、ト、醫、界、ノ、現、時、ニ、於、ケ、ル、進、達、ト、ハ、俱、ニ、之、レ、

ヲ、汎、ク、世、間、ノ、認、ム、ル、所、ナ、ル、ニ、モ、係、ラ、ズ、驚、ク、ベ、キ、ハ、歐、洲、ニ、在、テ、其、中、世、紀、ノ、頃、ニ、演、ジ、タ、ル、癩、病、ヤ、花、柳、病、ノ、大、流、行、ナ、ル、其、序、幕、ヲ、シ、テ、更、ニ、此、ノ、進、步、シ、タ、ル、日、本、ノ、首、府、ヲ、首、メ、ト、シ、テ、其、全、國、ニ、互、リ、之、レ、ヲ、今、日、ニ、再、演、セ、シ、ム、ル、者、ナ、ル、ニ、於、テ、チ、ヤ、。

是ニ於テ余ハ淺見ヲ顧ミズ、侵入軍タル花柳病ノ防遏策ヲ講究セントセバ、先ヅ現下ノ時勢ニ應ジテ、現行ノ防治策ヲ漸化シ、以テ漸次的ニ始末スベキ必要アルヲ感ズルニヨリ、其姑息的ノ因循ナル方法ハ固ヨリ之レヲ甘シ、敢テ強壓的ナル方法ヲ急行スベキ必要ヲ見ザレバ、彼ノ徳川幕政時代ノ遺物ニシテ、將來ニハ變態セシムベキ、廓制式ノ公娼以外ニ於テ、全國ノ各地ニ互リ、

汎ク花柳病的賣春者ヲ公認シ、獨リ其監理者即チ警察署ノミ、之レヲ知悉シテ、其檢梅ヲ勵行シ、大區廓ヲ爲シテ、大厦、高樓ヲ構へ、綺羅、修飾ヲ以テ人目ヲ引カシメズ、三絃、太鼓等ノ人足ヲ止ムルユトナク、何人モ、其何タルヲ解セザルユソ、最モ時勢ニ伴フ、神妙ナル方法デアロト思フ、而シテ既述ノ如ク、彼ノ廓式ハ更ニ、之レヲ新開スルヲ許サズ、之レヲ自然淘汰ニ委シテ可ナラン。殊ニ廓式ニハ、未開時代ニ行ハレタル、人身賣買的ノ惡弊ガ、今モ尙ホ往往ニシテ行ハレ易ク、憲法ノ下ニアル、自由ナル國民ニシテ、自由ニハ廓外ニ出入スルヲ得ザルノミデハナク、事實上ニハ一室内ニ幽囚セラレツツアルカノ、殘忍極マル、奇觀ヲ儼存セシメツツアルノデアル。

アル。

吾人ハ觀シ來テ、茲ニ至レバ、天道ノ自然ト、人道ノ不自然ト、其何タルヲ問ハズ、社會ニ對スル國法モ、人情モ、或ハ既ニ打破セラレツツアルニ、アラザルナキカトノ慨念ヲ禁ジ得ヌノデアアル。

天道ト人道トヨリ觀タル、準法人配下ノ公娼ニシテ、既ニ斯ノ如キ、自由拘束ノ弊アリトセバ、彼ノ法規ヲ無視シテ、竊カニ營業スル密賣春者ノ如キハ、人道上ヨリ之レヲ視ルニ、一層ノ殘忍、酷薄ナル境遇ニアルモノアレバ、固ヨリ本論ニハ關係ノ菲キモ、記述ノ關係上、聯カ茲ニ陳ベテ見ヨ。

現時ニ於ル花柳界ノ廓式ハ、徳川幕府寛永頃ノ開設ニ

係リ、多年間ニ數多ノ沿革アツテ、今日ニ持續シタノデアルトノユトナルガ、徳川幕府ノ如ク、小規模ナル隔世的ノ鎖國主義ヲ旨トスルトキハ、外國ニ對スル經世、國情、體面等、一切之レヲ顧慮スルノ必要ナキガ如キモ、我が邦今日ノ如ク、既ニ外國トノ交通頻繁ヲ極メ、倍マス親睦シ、往來ヲ重ネツツアル秋ニ於テハ、設シ、事ハ小ナリトスルモ、彼ノ遊廓ノ程式ハ國家ノ體面上ニ關係スベキユト、鮮尠ナラザルバカリデハナク、内ニ在テハ國人、其者ノ教育、風習等ニ甚大ナル惡映響ヲ及ボスベキハ謂フマデモナシ。

熟ツラ現時ニ於ケル東京市内ノ情況ヨリ、之レヲ鑑察スルモ、其接近ニ存在スル芳洲ノ二廓ト、新品、千板ノ四宿トノ公娼ハ、其全數ノ極メテ鮮尠ニ過グルニ反シ、市内ニ潜在シテ、暗暗裏ニ活動シツツアル密賣春者ハ、其全數モ、其有毒者モ、恒ニ非常ニ夥多ニシテ、其人數ハ或ハ公娼ヨリ殆ド十倍ノ多大數ニモ達スベキ者ト傳聞シ居ルニモ係ラズ、其花柳病毒蔓延ノ豫防的制裁ハ、全ク之レヲ逸シツツアル者ナレバ、其多大數ナル有毒者ニ觸レテ、其多大ナル病毒蔓延ノ慘害ヲ蒙リツツアルモノハ即チ不幸ナル東京市人、若クハ市内ニ出入スル、小區域ノ人デアル。

然レバ則チ今日ノ東京市ノ如ク、既ニ已ニ該ノ花柳病蔓延ノ、尤モ恐怖スベキ全盛時期ニ入りツツアツテ、未來ニ及ブマデモ、之レヲ處理スルユトナク、無限ナル長

期ニ互ツテ、該ノ忌ムベク、耻ツベキ花柳病ノ大災害ヲ
 持續セシムルモノナラント言フニ至ツテハ、豈ニ之レ
 ナ一大恨事ト爲シ、慚愧セザルヲ得ンヤ、實ニ東京市人
 ノ大多數ハ現ニ該病ノ大流行ニ襲ハレテ、正サニ其慘
 毒ニ苦シメラレツツ、各自ノ一部ノ富モ、之レガ爲メニ
 殺ガレツツアルノデアアル、故ニ現在市人ガ該病ノ爲メ、
 方サニ其害毒ヲ蒙リツツアル、一例ヲ舉グレバ、市人ハ
 既ニ一回二十圓以下ノ科料ニモ處セラルベキ、警察ノ
 儼令アルニモ拘ラズ、敢テ之レヲ省ミズ、市内各所、到ル
 所ノろち邊ニ於テ、隨所、隨時ニ放尿ノ儼禁ヲ犯シツツ
 アルノデアレバ、該ノ多大數ナル放尿違犯者アル所以
 ノモノハ、蓋シ公德以外ノ病的作用ニ因ルベキモノナ

ラントハ、眞ニ、吾人ノ喫驚セザルヲ得ザル事實デアアル。
 是ニ於テ人體ノ健康ナル時ト、病時、殊ニ花柳病ナル淋
 疾ガ尿利ノ回数ニ及ボスベキ狀況トニ就キ、之レヲ約
 言セバ、我が東京市人ノ多大數、否ナ多大數ノ本邦人ハ、
 如何ニモ尿利頻繁ニ襲ハレツツアル、狀態デアツテ、之
 レヲ學術上ヨリ視レバ、其常體即チ健康體ナラザル如
 キ状態トナルノデアアル(故ニ普通新聞紙上ニモ、北里博
 士及ビ其他ノ學者ガ、日本婦人ハ會場ニ在テモ、其便行
 ノ頻回ナルハ、如何ニモ不體裁デアレバ、ヨロシク、ツツ
 シマレタシト、等ノ記事ヲ掲載スルニ至ルノデアアル)、
 例ヘバ、甲者ノ日中ノ視察ニヨレバ、東京市ノ公設便所
 以外ニ於ケル、放尿者ノ概數ハ、一回ノ放尿科料金ヲ五

拾錢トスレバ、其一ケ年間ニハ優ニ數十萬圓以上ニモ達シ得ベク、又公設便所ハ殆ド間斷ナク、大入ノ繁昌ヲ極メ、四時ヲ通シテ、該ノ公設便所ノ近圍ニハ尿川ガ流レ居リ、其公德ヲ省ミザル者ノ鮮カラザルハ、固ヨリ慨歎ノ至リナルモ、使用者ノ往來モ亦殆ド間斷ナキアリサマナリシト、云フノデアアル。

乙者ノ夜間ノ視察ニヨレバ、公設便所ハ恒ニ滿員ニシテ、其近圍ノ放尿者ハ極メテ多ク、殆ド近ヅク能ハザルノミナラズ、殊ニ排尿時間ノ非常ニ長キ者ガ、甚ダ多カリシト、云フノデアアル。

該ノ甲、乙兩者ノ視察ヲ總合スレバ、何事ニモ公德心ニ乏シキ者ノ鮮カラザルハ、識者ト俱ニ、吾人ノ慨歎ニ耐

ヘザル所ナルガ、警察ノ嚴令ヲ犯シテマデモ、ソソシヨソコラニ敢テ放尿スル者ノ夥多ナルハ、蓋シ其病的作用ニヨルモノガ殊ニ多カロート思フノデアアル。

本來淋毒ガ尿道ノ後部ニ浸入シタル場合ニアツテハ、尿意ヲ催スト同時ニ排尿セザレバ、殆ド一步ヲモ歩行スル能ハザルガ如キ、苦感ニ陥キルニ至ル程ノ病症ナル者モアリ、縱シ其病狀ハ稍ヤ輕快スルトシテモ、尙ホ且ツ一度尿意ノ催シアレバ、到底二三分以上ニ互リ、耐ヘ得ル能ハザル者デアアル。醫療上ニハ、是レ等ノ患者ハ通常安靜ヲ要スル者トスルモ、本來淋疾ハ下層者ニモ多キ疾病ナリトノユトナレバ、該ノ症狀以上ニ輕快シタル者ハ、或ハ其家計上、既ニ外務ニ從事スベケレバ、若

シ是等ノ者ガ途上尿意アツテ、公設便所ニ至ルモ、該場ハ恒ニ滿員ナルユト多ケレバ、殆ド其空位ヲ待ツベキ違ナク、茲ニ公德以外ノ病的作用上ヨリ、便所ノ近圍ナルソソシヨソユラヤ、若クハ到ル所ノろち邊ニ、違犯的放尿者ヲ續出スルニ至ルベク、隨テ四時ヲ通シ、該ノ場圍ノ如キハ、恒ニ小川ヲモ爲シツツアルニ至ルノデアロト思フ、況ンヤ、慢性淋ノ尿道狹窄等ニ陥キル者ハ、其排尿時ニアタリ、如何ニ怒責スルモ、任意的ニ排尿スル能ハズシテ、多クハ二三人分ノ排尿時間ヲモ、消費シツツアルノデアレバ、茲ニ公設便所滿員ノ原因ヲモ、爲ス者ノ尠ナカラザルニ至レルヲヤ。

東京市内公設便所ノ滿員ナルユト多キト、該ノ近圍ハ

四時ヲ通シテ、尿川ノ流ルルトノユトガ、事實ナリトセバ、放尿違犯者ノ多大數ヲシテ、市内ノ至ル所ニ續出セシメ、現ニ放尿違犯者ハ、或ハ公德心ノ乏シキ者鮮カラザルニモセヨ、市内各所ノ警察署ニ日日相踵ギ、其違犯的科料金ヲ徴收セラレツツアルニモ拘ラズ、尙ホ且ツ違犯的ノ罪科ニ觸レツツアツテ、相互的、相關的等ノ公德心ハ毫モ、之レヲ省ミルノ違ナク、ソソシヨソユラニ多大數ノ放尿違犯者ヲシテ、隨所、隨時ニ續出、續行セシメツツ、尙ホ其増加スルノ傾向アル所以ノモノハ、止ダニ公設便所ノ少數ナルカ、公德心ノ乏シキカ、警官ノ視線ヲ免レシ者カ等ノ、ユトノミニ關係スルバカリデハナク、彼ノ市内至ル所ノろち邊ニ、多ク見ル所ノ、小便無

用ノ注意標示ガ幾千、幾萬アルカニ視テモ、斯ク放尿者ノ夥多ナルハ、蓋シ其病的作用ニ因ル者ガ多カロト思フノデアアル。江戸時代ニ於ケル市内放尿者ノ状態ハ、今日之レヲ知ルニヨシナシトスルモ、當時ノ川柳ニ、柳原小便無用家根にあり「トカ」それでも上から柳はたれてゐる「トカ」言フヨ一ナ、江戸時代ニモ、夜間放尿者ノ多カリシトノコトヲ察知シ得ルニシテモ、現時東京市内ノ放尿者ハ市ノ體裁、否ナ、本邦ノ首府タル大都市ノ體面ヲ汚シツツアルノハ、事實デアアルノデアアル。

思フニ、我が邦今日ノ如ク、實ニ空前ノ蔓延ヲ爲セル花柳病ニ對シテ、之レヲ防遏セントスルニハ、現時ニ行ハレツツアル如ク、稀レニ密賣春者ヲ拘留シテ、其有毒者

ヲ治療スル等ノ如キ、兒戯ニ等シキ、迂遠極マル方法ニテハ、到底徒勞ニ屬シ、言フ迄モナク、無能ニ了ルベケレバ、寧ロ全國ヲ通シ、彼ノ暗裏ニアツテ、公然ノ秘密トナリナル、多大數ノ賣春者ハ擧ゲテ、一般ニ之レヲ公許シ、有毒者發見ノ勵行ヲ努メ、之レヲ治療スルノ安全ナル方法ニヨルノ外、到底該ノ病者ヲシテ減退セシムベキ、適當ナル方法ナキガ如クデアアルカラ、我が邦今日ノ花柳病大流行ニ應ズル、防禦方法ノ手段トシテハ、尤モ急速的ニ一般ノ密賣春者ハ、之レヲ公許シ、以テ慘毒流出ノ根源ヲ滌清シ、以テ茲ニ持久的ノ計策ヲ企畫シ得ルコトトセバ、蓋シ花柳病蔓延ノ撲滅策上ニ於テ、最モ安全ナルモノナラン。

本來花柳病ナルモノハ、我が人類間ニ於ケル、自然的ノ性行上ニ隨伴シツツアツテ、或ハ容易ニ、之レヲ拔クコト能ハザルモノノ如シトスルモ、若シ其豫防方法ニシテ、其宜ヲ得バ、該病ハ之レヲ減退セシメ得ベク、其治療方法ニシテ、其當ヲ得バ、該病ハ之レヲ治癒セシメ得ベキ者ナルノミナラズ、一般社會ニ對シテモ、現存セル汎キ賣春者ノ一團ハ舉ゲテ、之レヲ公許スルコトトナシ得レバ、

第一 天道タル自然界ノ性行上ニ對シテモ、之レニ悖ルコトナカルベク、

第二 人道タル不自然界ノ缺點アルモノモ、之レヲ除キ得ルニ至ルベク、

第三 憲政下ノ國民トシテハ、或ル點ニ於テ、其自由ナル行動

ノ羈束ヲモ、之レヲ快復シ得ルニ至ルベク、

第四 汎ク國民間ニ瀰蔓セル、甚大ノ慘害ニシテ、其多大數者ヲ苦惱セシメツツアル花柳病モ、之レヲ豫防シ得ベキ方法ガ、一般的ニ實行セララルルニ至ルベク、

第五 治療ノ必要ナル有毒者ノ疾病モ、之レヲ安全ニ治療シ得ルニ至ルベク、

第六 今ノ世ニ、聞クモ忌マシキ、殘忍極マル、人身ノ賣買ニ等シキ、不法ノ行爲モ、止息シ得ルニ至ルベク、

第七 徵兵應募者ノ或ル不健全ナル弱點モ、減退シ得ルニ至ルベク、

第八 石田タル婦女界ノ、不妊ノ原因モ、多クハ減退シ得ルニ

至ルベク、

第九 梅毒、若クハ其遺傳性素因ニ係ル、體質ノ不良者ヤ、虚弱者ヤ、眼病者等ノ弱點アル者モ、著シク減退シ得ルニ至ルベク、

第十 世界ノ開明國中、獨逸ハ千九百年ノ調査ニヨレバ、人口千人ニ就キ、其分娩率ハ三十五人デ、又同年頃ノ日本ハ三十五人三ナルモ、其死産數ニ至ツテハ、獨逸ハ百人ニ對シテ僅カニ〇、三ナルニ、日本ハ〇、九以上ノ多大ナル死産ヲ出シ、而シテ獨逸ハ、其胎内ノ死者ト、分娩時ノ死者トガ、相ヒ半バン居ルニモ拘ラズ、我が邦人ハ胎内ノ死亡者百人中、其七八十八梅毒ノ爲メ死亡スルニ至ルトノ事トデアアルガ、是レ等モ亦著シク減退セシメ得ル

ニ至ルベク、

第十一 東京市人、否ナ、本邦人ノ多數ニ見ル、病的ナル尿利ノ頻數ヤ、排尿ノ遲滯等ノ、不體裁ナル陋習モ、減退シ得ルニ至ルベク、

第十二 市内各所ノ公設便所ノ、驚クベキ盛況ノ不體裁モ、亦或ハ減退、衰微シ得ルト同時ニ、尤モ惡習、殆ド茲ニハ如何ニモ明言シ難キ、本邦ノ首府ナル東京市内ノ、各公設便所ノ通路ガ四時ヲ通ジテ、尿川ヲ爲シ、近ヅク能ハザル不體裁モ、茲ニ始メテ自然的ニ消失シ得ルユトトナルニ、至ルノデアロト思フ。

斯ク述べ來レバ、吾人ハ止ダニ悚然トシテ、慘憺措ク能ハザルノミデハナク、實ニ之レヲ物色スルハ、非常ノ苦

痛ト、耻辱トヲ感ズルノデアアル、矧シヤ、其實況ヲ縷述スルガ如キハ、常識アル帝國臣民トシテハ、如何ニモ耐ヘ得ベカラザル者デアツテ、實ニ慚愧ノ極デアアル、或ハ無慮、不徳者トノ罵評ヲモ、蒙ムルユトナキカト、恐縮スルノデアアルガ、我が邦今日ノ國狀トシテハ、カカル多種ノ陋習ニ對シ、片時モ早く、之レヲシテ蟬脱セシムベキコトノ必要ナルハ、何人ト雖モ、之レニ不同意ナキユトト思ハレル。

凡テ事物ニ對シ、或ハ其注意ヲ懈弛シ、或ハ其實行ヲ誤解シ、若クハ不徳者ニ對シテモ、或ハ其始末方法ヲ誤リ、或ハ之レヲ完全ニ豫防セズシテ、等閑ニ附シ去リ、竊カニ笑フ外人ニハ、公然之レヲ表示シツツアルカノ如ク、

之レニ對スル豫防ノ法策ヤ、減退ノ方法等、其必要アルモノモ、或ハ之レヲ放任シツツアルカノ如ク、或ハ恬トシテ、之レヲ省ミザルカノ如キ、狀態ニ陥リツツアルモノデハナカローカト、思ハルルノデアアルガ、設シ、之レヲ述ブルトシテモ、筆者ノ苦心ト、憂慮トハ、衷心實ニ恐惶ニ耐ヘ得ヌノデアアル、噫ア。

第二篇。序外ノ記終。

第三篇 科學ノ定義。 Definition von den Wissenschaften.

科學ノ定義ヲ論ジ、遂ニ宇宙ハ電素一原ナリトノ始原説ニ及ブ。

電素 Urelectrogen seu Urelectron, sive Principium electricium oder der elektrische Urstoff.

本篇ハ既ニ萬有科學ノ始原論ト題シ、而シテ科學ヲ基臺トシテ、萬有科學ノ始原ヲ論述シタ者デアアル。

本來科學的ノ研究、科學界ノ進歩トハ、該ノ科學界ヨリ觀タル萬有ノ現象、事物、其者ノ始原ニ到達スベク、之レヲ研究シテ、進歩スルヲ期スルノデアアルガ、如何セン、我ガ科學界ハ今日ノ如ク、非常ニ進歩、發達シタトハ言ヘ、宇宙間ニ儼存スル萬有ノ現

象、事物ハ言フマデモナク、宏大、無限的デアレバ、其學究上ニハ至ル所ニ暗點アリ、進ム所ニ難關アツテ、未ダ容易スク、該ノ萬有ナル科學的現象、事物ノ始原地ナル彼岸ニ到達シ得ベクモアラザルガ如キ、狀態ナノデアアル。

余ハ茲ニ、其例ヲ舉ゲンニ、彼ノ有名ナルちやーれす、だーういん氏進化論ノ基臺タル起點即チ其始原點ハ、自然的ノ特異性作用ニ因テ、無生物ヨリ有生物ノ化生セル者即チ *Generatio aequivoca spontanea* ナリトシテ、進歩セル我ガ學界ニ於テ、今日モ猶ホ、其不明ナル者が既ニ已ニ五十餘年間ニモ亘ツテ、其未發ナル懸案トシテ、長ク儼存シツツアルノミナラズ、其新別働隊タル吾吾ノ眼前ニモ、尙ホ且ツ依然トシテ、不可抗的、不可解的ナル、不能拔的ノ難關トナツテ、遮斷シツツアル者が儼存スルノ

デアアル。

科學ノ中デモ、其筆頭ニ置カレルモノト、言ハレツツアル心理學界ハ、今モ猶ホ依然トシテ、心原的、原素ノ遺傳説ヲ夢想シツツアルノミデハナク、止ダニ心ト物トハ實在ノ兩面デアルト、言フノミニシテ、未ダ開發シ能ハザル鐵扉ノ前ニ踟躕スルノ觀アリ。

物理學界ヤ、醫學界等ハ、凡テノ物ハ變態性ノ電體物デアアルコトノ論究ナクシテ、千變、萬化シ得ベキ色ヤ、味ヤ、香氣等ノ電化的ナル、電流性ノ現象、作用ハ、之レヲ如何ニ解説シ得ベキカ。又水蒸氣ノ現象、作用ガ、吾人ノ眼前ニ在テモ、不斷性ニ變化シ、變態シツツアル恆性ヲ有シ、本體ノ無形ニシテ、不可視的ニ實在スルハ、如何ニ之レヲ解説シ得ベキモノナルカ、例ヘバ水蒸

氣ハ温ニ因テ水質ヨリ蒸發シ、冷ニ因テ水質等ニ濃縮スト、言ハレツツアルノデアアル、ガ、該ノ温ト、冷トハ果シテ何ニ物デアアルカヲ、明解スルノガ始原論ノ本色デアアル。

又開電性ナル光、火、熱的現象、作用ト、閉電性ナル寒冷的現象、作用トハ、之レヲ余ノ始原論上ニ於テ、全然同一性ナル電化的現象、作用ノ變態セル者即チ其一原性ノ者ナリト爲シ得ルニモ拘ラズ、之レヲ明解シ居ラザルヨイデアアル。

凡ソ宇宙間ニ儼存スル、無數ナル天體、其者ノ一ナル太陽ヲ首メトシテ、我ガ地球ハ固ヨリ、凡テノ天體ハ無形性ニシテ、不可視的ノ實在物ヨリ生成セル者ナリトノ、統一的ナル始原説ハ、未ダ之レヲ説述シ居ラザルヨイデアアル、且ツ地球ニ儼存シツツアル、南、北ノ磁氣ナル變態的電流性作用ノ發生ハ、之レヲ如

何ニ解説シ得ルデアロカ。

化學界ハ、其化學的變化ヲ首メ、理學的、生理的、消化的、腐敗的、酸化的、燒化的、分化的、合化的、電化的等ノ諸變化、諸作用ヲ以テ、未ダ之レヲ同一性ノモノトシ、之レヲ一原ノ下ニ統一シ居ラザルヨイデアアル。

又最近ノ學究特ニ、其尤モ斬新ノ説トシテ、最モ進歩シタル原子ノ組織説ニヨレバ、該ノ原子ヲ組織スルモノハ、おれくところん Electron 電子デアアル、而シテ又該ノおれくところん電子説ニヨレバ、おれくところんハ陽性ノ電球中ニ陰性電氣ヲ充サレタルモノノ如クニシテ、例ヘバ原子ヲ太陽系トスレバ、おれくところんナル電子ハ恰モ太陽及ビ諸遊星ノ如キ、關係ヲ有スルモノラシイト、言ハレテ居ルノデアアルガ、本篇ハ則チ是レ等一切ノ

疑問、難關ニ對シテ、電素一原說ナル始原論上ヨリ、其解說ヲ試
ミントスルノデアアル。

我ガ人類ノ始原時代ハ幾百、幾千萬年前ナルカ、吾人ハ悉ク、之
レヲ了知シ難シトスルモ、業ニ既ニ、其五、六千年前ノ頃ヨリハ、
漸ク有史時代ニ入りタルガ如シ、而シテ其四、五千年前ノ頃ヨ
リ人智ハ、其進歩、發達ヲ印シ、人事ハ、其進化、變遷ヲ證シ、或ハ統
治的ノ政策ヲ建テ、或ハ學術的ノ思潮ヲ舉ゲ、商、農、工、藝等ハ漸
ク隆盛トナリ、其世界的ノ大勢ハ愈ヨ益マス、其進歩、發達セル
潮流ヲ漲ラシツツ、茲ニ約三千年間ヲ閱シタリ、而シテ今日ニ
在テハ、其社會ハ倍マス大進歩、大發展ヲ爲シツツアルノデア
ルガ、蓋シ我ガ萬有ナル科學界ハ該ノ潮流ヲ汲ミテ、益マス隆
盛トナリ、彌ガ上ニモ向上シテ、現時ノ大進歩、大發達ノ域ニ達

シ得タルモノナリトスルモ、抑モ、我ガ科學界ノ根本ナル、其始
原的ノ基臺ニ溯ツテ、之レヲ研究スレバ則チ既述ノ如ク、遠ク
我ガ人類ノ始原時代ニアツテ、其混沌タル宇宙ニ、已ニ發芽シ、
人類ノ進化、變遷ト、人智ノ邁往、發達ト、俱ニ展開セラレツツ、詣
達シタル者トナレバ、其間ニ處シテ、漸徐的ニ大進達ヲ遂ゲ得
タル、萬有ノ科學ナリトスルモ、顧フニ、其根本ハ人類ガ漸次的
ニ、其自然性ヲハナレ、徐步的ニ、其自然性ヲ捨テ、此ニ該ノ不自
然性ナル人工的ニ生成セル、介達性ノ科學ナレバ、縱シ、自然界
ニ於ケル、自然的ノ萬有ナル現象、事物ニ對シテ限ナク、之レヲ
精研シタル者ナリトハ言ヘ、吾人ハ今日ニ於ケル科學ノ進歩
ヲ、其基臺ニ就キ、之レヲ鑑察シテ、觀シ來レバ則チ今日ノ科學
ナル者ハ、吾人ノ人工的ナル學術上ヨリ、宇宙間ニ儼存スル自

然性ノ現象、事物、其者ヲ、或ハ不自然的ニ、若シクハ自然的ニ、遂究シテ、或ハ之レヲ開發シ、若クハ之レヲ發見スベク、進行シツツアル状態ニアルノデアアル。

元來混沌タル宇宙間ニハ、其自然的ナル進化性、進行的等ノ作用アリ、隨テ天體ヲシテ生起セシムルニ至リタル者ナルベケレバ、此ノ天體ノ一ナル我ガ地球モ亦該ノ自然的、進化性作用即チ電原的ノ電化性作用ノ下ニ在テ、生起シ得ベキ物デアアル、サレバ、其地球上ノ無生物ヤ、有生物ハ言フ迄モナク、人類モ亦固ヨリ、其數ニ漏ルル能ハズ、該ノ自然的、否チ電原的ノ電化性作用上ヨリ、其電化的ニ生起シタル者デ、ナケレバナラヌノデアアル。

是ヲ以テ凡テ變態性ノ電體物ナル無生物ハ、其電化的作用ノ

下ニ在テ、閉電シ、以テ物理學ニ所謂ル、惰力的即チ慣性的ニ靜止シツツアル者ト爲シ得ルニ反シ、

凡テ變態性ノ電體物ナル有生物ハ、其電化的作用ノ下ニ在テ、開電シツツアリ、以テ物理學ニ所謂ル、惰力的即チ慣性的ニ電化シツツアル者ト爲シ得ベキモノデアアル。

該ノ電原的ニ自然性ナル、人類ノ智能即チ其心電的ノ電流性ナル(精神的)作用ニヨツテ、凡テ工夫セラレ、研究セラレタル、科學上ノアラユル現象、事物、其者ハ舉ゲテ、吾人ノ精神的作用(即チ心電的ノ電化性作用)上ヨリ、遂究的ニ研究セラレタル者トナレバ、吾人ハ之レヲ變態性電體物ナル、吾人人體ノ精神的作用(即チ心電的ノ電化性作用)ニヨリ、其介達的作用ノ下ニ在テ、遂行セラレタル者ト言ヒ得ベキデアアル。

若シ果シテ然リトセバ、凡テ宇宙間ニ儼存スル萬有ナル現象、事物ハ、之レヲ自然性ノ者ト言ヒ得ルニ對シ、吾人人體ノ精神的作用(心電的ノ電化性作用)上ヨリ介達的ニ開發シ、發見セラレタル一切ノ研究事業、其者ハ舉ゲテ、人體ノ心電性電化的作用ナル、其精神的機能作用ノ下ニ在テ、介達的ニ生成セラレタル者ト爲シ得ベキデアアル則チ吾人ノ今日學ビツツアル、介達的ニ生成シタル科學ハ、之レヲ人工的ノ不自然性ニ生成シタル者ト爲シ得ベキデアアル、然ラバ吾人ハ該ノ人工的、不自然性ノ介達的ナル學術ヲ基臺トシテ、自然性ナル萬有ノ現象、事物、其者モ、或ハ之レヲ介達的ニ、若クハ之レヲ直達性ニ研究シ、之レヲ追究シテ、其自然的作用ヲモ、遂ニハ之レヲアバクベク、之レヲ勉メ、之レヲ探究シツツ、溯ツテ、其自然性ナル始原點ニ到達スベキ、不自然性ナル人工的ノ、介達性ナル科學ヲ追究シツツアルノデアアルガ、

余ハ該ノ不自然性ノ、人工的ナル介達性科學ヲ基臺トシテ、宇宙間ノ自然性ナル、萬有ノ現象、事物ハ、之レヲ宇宙間唯一ノ電素、其者ノ干變、萬化モ啻ダナラザル、無究、無限ナル電氣性電化的ノ作用上ヨリ、或ハ電化シテ變態性ノ閉電物即チ無生物、若クハ變態性ノ開電物即チ有生物等トナリ、或ハ電氣的ノ現象、作用、若クハ變態性ナル、電氣的ノ現象、事物等トナリタル者ト爲スニアレバ則チ余ハ、之レヲ一括シ、

凡ソ宇宙間ニ儼存シツツアル、一切ノ現象、事物ハ之レヲ舉ゲテ、空漠無限ノ宇宙間ニ、唯一ナル電素ノ活動上ヨリ、生起シ得ベキモノト爲シ、以テ彼ノ支那國ノ老莊哲學ノ宇宙ハ虛デア

ルトノ説ヤ、最近ニ於ケル科學界ノ學究上、其ゑれくとりんナル電子説ニ、宇宙ハ虚無デアルトノ論説アルニモカカハラズ、余ハ止マニ、宇宙ハ唯一ノ雷素アルノミツ者ト斷言シ、以テ宇宙間ニ儼存スル、凡テノ現象、事物ハ即チ該ノ電素ノ活動ニ因ル、其電氣性ナル電化的ノ作用上ヨリ生成スル者ト爲シタノデアレバ則チ余ハ茲ニ本篇ヲ草シ、以テ宇宙ハ電素一原ナリトノ始原説ヲ主張スル所以デアル。

本篇ノ論旨ハ斯クモ大膽、不敵ノ説述ニシテ、且ツ暴戾、無法ヲ極メ、現ニ大恩惠ヲ被ムリツツアル科學界ニ對シ、或ハ反逆ノ徒ニモ等シキ、行爲ノ點ハ鮮妙ナラズトスルモ、本書ニシテ、若シ之レヲ現代科學界ノ思潮ニ投ジ、幸ニモ、其没滅ノ不幸ヲ免ルルノ光榮ヲ得ルユトアレバ、著者ハ則チ將來ノ思想發展上

ニ於テ、猶ホ一層ノ幸慶ヲ受ケ得ル者アラシ。

萬古不滅
萬世不變

萬有科學ノ始原論

卷之一 終

明治四十五年五月三日印刷
明治四十五年五月六日發行

正價金壹圓五拾錢

不許
複製

發著
行作
者兼

小

林

廣

印
刷
者

淺

野

榮

作

印
刷
所

東洋印刷株式會社
東京市芝區愛宕町三丁目二番地

發賣元

東京市神田區鍛冶町四番地

誠之堂書店

電話本局九百四十九番
振替口座四千七百七十二番

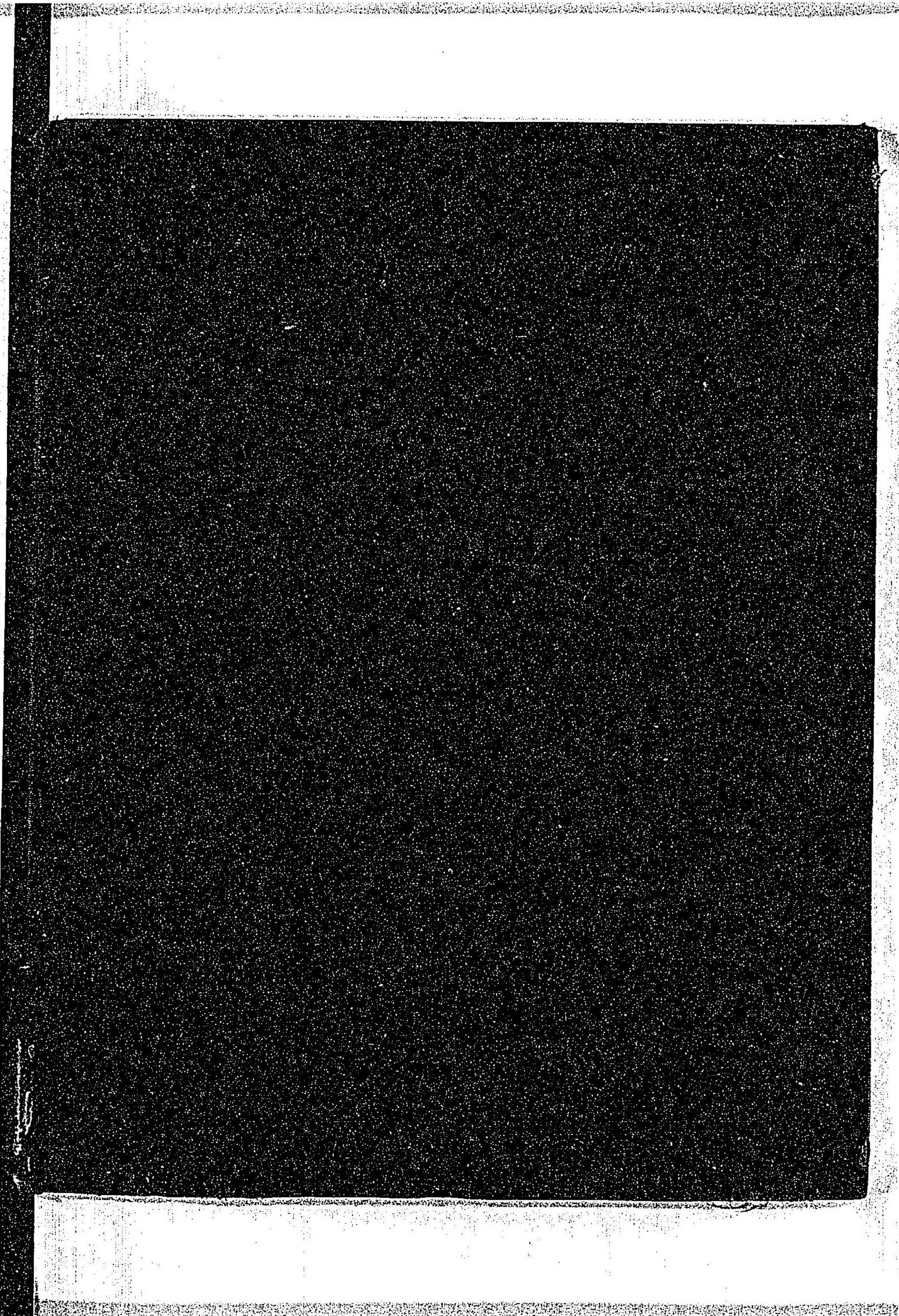
取次所

南江堂
金原書店

吐鳳堂
南山堂

半田屋
丸善

60
304



60
304

052913-000-7

60-304

万有科学ノ始原論

小林 広ノ著

M45

CAA-0271



60
304

The
invariable and unexterminate

Original-theory
of all science.

eine

Mono-urelectrogen-theorie

von

Dr. Hiroin Colmayashi

Erster Band.